

### 令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州みそ発祥の地・佐久発 みそだれ餃子の食文化発信事業
事業主体 (連絡先)	信州佐久安養寺ら〜めん会 佐久市猿久保805-1
事業区分	(6) 産業振興及び雇用拡大に関する事業 オ その他
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,222,208円 (うち支援金: 1,557,000円)

#### 事業内容

「安養寺ぎょうざ誕生イベント」の開催

安養寺ぎょうざ誕生記念スタンプラリー

■スタンプラリー開催期 2019年7月25日～9月16日

■参加店 安養寺ら〜めん会加盟店含む佐久市内飲食店20店

安養寺ぎょうざ提供店で安養寺ぎょうざを食べてもらい、ラーメン店でスタンプを5つ集めるとオリジナル餃子皿を、居酒屋でスタンプを4つ集めるとオリジナルピアジョッキをプレゼント。

#### パンフレット 8,000部配布先

スタンプラリー参加各店 250部×20店=5000部

佐久平駅 1000部

佐久市内ホテル・旅館など宿泊施設(旅館組合を通じて) 1000部

軽井沢プリンスショッピングプラザ内飲食 1000部

※(増刷分残り2000部は、信州佐久安養寺ら〜めん会事務局で保管中。以降、安養寺ぎょうざ提供店の必要に応じて補充していきます)

#### のぼり旗配置先

スタンプラリー参加各店 2枚×15店=30枚 4枚×5店=20枚 計50枚

#### スタンプラリー台紙配置先

ラーメン店 400枚×10店=4000枚 居酒屋 300枚×10店=3000枚 計7000枚

#### ポスター配布先

参加店 20店×3枚=60枚、軽井沢ファーマーズギフト5枚、和泉屋商店5枚、旅館組合20枚 計90枚

※残り10枚 安養寺ら〜めん会事務局にて保管。

#### 事業効果

●新グルメ誕生で、「安養寺ぎょうざ」を目当てに、提供するラーメン店、居酒屋に多くの人が来店、地域経済の活性につながった。

期間中、参加店20店で提供された「安養寺ぎょうざ」は、およそ4700皿。多い店舗では550皿販売した店もあった。



【安養寺ぎょうざ】

#### 【目標・ねらい】

- ① 安養寺みそという地域食材を使って、佐久地域の新ご当地グルメの誕生させる
- ② 新ご当地グルメを知ってもらい、たくさんの店を巡ってもらうことで、地域経済の活性化につなげる。
- ③ 信州みそ発祥の地・佐久のブランド定着化
- ④ インバウンドによる海外からの観光客の誘客

※自己評価 【 B 】

#### 【理由】

- ① 安養寺ら〜めん以降、生まれていなかった新しい安養寺グルメを誕生させることができた。
- ② 信州みそ発祥の地を、ラーメン業界だけでなく、居酒屋業界からも発信し、佐久市の飲食店を盛り上げることができた。
- ③ 信州みそ発祥の地・佐久の認知度アップ、ブランド化に一役買うことができた。

## (別記様式第12号) (第3の8関係)

スタンプラリーで、スタンプを集めて景品を受け取りに来た人は、  
129名(餃子皿71名、ビールジョッキ58名)だった。

### 参加店主の声

- 「スタンプラリーを目的に訪れた客が、当店のほかのメニューも知ってもらい、次の来店につながった。まだ開店して日も浅かったので、お店を知ってもらおうきっかけになった」
- 「以前から取り扱っている餃子よりも爆発力があり、期間中に550皿もでた。うれしい悲鳴ですが、腱鞘炎になってしまいました」
- 「新しい食べ方の提案も良かったのですが、タレの評判が良かった。持って帰りたいというお客さんもいました」

多くの人に知ってもらい、食べてもらったことで、新ご当地グルメ「安養寺ぎょうざ」の基盤づくりができた。  
ラーメン店以外で、安養寺みそを使ったご当地グルメが食べられるようになり、信州みそ発祥の地・佐久のPRにつながった。安養寺ら〜めんに次ぐ、安養寺みそを使ったご当地グルメの誕生により、新たな可能性を見いだした。新たなメニュー開発など新しい展開へのステップになった

### 媒体での取り上げ

- 信濃毎日新聞 7月24日掲載
- 長野朝日放送「ABNステーション」7月26日放送
- 月刊ながのこまち 10月号(8月下旬掲載)掲載
- FM軽井沢 8月23日放送

## 今後の取り組み

### 今後の取り組み

今まで何もなかった状態から、新しいグルメを誕生させることができた。安養寺ら〜めんと連携させ、“みそグルメ”としての地位確立を目指す。

定着して、地域の食文化として育てていくために、取り扱い店の拡大、各店で店頭での積極販売をしていく。ホームページなどを整備し、①県外などへより広いPR、②持続的なPRを目指していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある